

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|---|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 10 | <p>「チームで作る介護計画とモニタリング」</p> <p>↓</p> <p>現場でケアプランを作り、又、2ヶ月に一度、モニタリングを行い、必要があればケアの目標を定めているが、現場が作成したものを法人本部の金沢にFAXすると、かなりの部分が赤ペンで戻ってくる。原因は職員の目線が甘いことで、現場にいないハズの理事長が、鋭く職員の甘さを指摘して来る。このいびつな形を早急に改善しなければならない。</p> | <p>理事長に指摘を受けないよう、職員はいろんな方面から利用者さんを見なければならぬ。現場にいると一つの方向しか見えず、気づかず、結果として利用者さんを傷つけたり、家族さんに不快な思いをさせたりすることがある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・介護職以外の多職種の人と、広く浅くお付き合いしなければならない。 ・たまには金沢に出かけ、新しい文化や商品に接し、せめて映画を1年に1～2本見るようにしなければならない。 ・職場の仲間と喫茶店でティータイムを楽しんだり、ランチ会をしたりして、豊かな暮らしを楽しまねばならない。 ・豊かな人間性を育てつつ、豊かな暮らしを楽しまねば視野が狭くなり、結果として良い介護が提供出来ないと考える。 | 1年 |
| 2 | 31 | <p>自己評価 31「看護職との協働」</p> <p>↓</p> <p>職員に医学的知識がないが故に、婦人科のおりものを膀胱炎の血尿と勘違いし、泌尿器科を受診してしまった。又、80代の高齢者なのに、慢性膀胱炎の診断名があったとはいえ、2月の厳冬期にシャワー浴をさせてしまった。慢性膀胱炎は急性膀胱炎と違い、自覚症状は乏しく、短時間の入浴であれば、何ら問題がないと考えるが、このようなチグハグな行為は職員に医学的知識がないからだと考える。</p> | <p>医学的知識の習得が、全ての解決方法なので、職員一人ひとりが自分の知識の無さを恥じて、自分なりの目標を定めて知識の習得に努めるしか方法がない。菜の花ではここ5～6年、職員にかなりの医学的な勉強をさせた積りであったが、正直なところ覚えが悪く、職員の医学的知識習得には時間がかかり、常識では信じられないことが起きる。(代表者記載)</p> | <p>テレビや新聞には健康に関する番組や記事があふれている。まずは職員自身が興味を持たねば、これらの番組や記事は目に入らないが、医学的知識の欠如は、介護職員の弱点だということを自ら強く自覚し、法人から課題として与えられる項目のレポート以外に、自主的に学ぶより方法がないと考える。法人も又、職員の習得度の遅さに根負けせず、繰り返し繰り返し基本的なことを教えねばならない。</p> | 1年 |
| 3 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。